

平成27年度第2回学長選考会議議事概要

日時	平成27年6月23日（火）15時15分～16時30分
場所	福岡教育大学事務局第三会議室
出席者	喜多議長，田中副議長，徳田，春山，山形，伊藤，大竹，甲斐，片平，清水の各委員
欠席者	城戸委員，谷井委員
列席者	安部人事企画課長，北村人事企画課副課長，関根人事企画課主査，高田人事企画課課員

- 審議に先立ち，事務局から配付資料の確認があった。

【議 題】

1. 学長に求める資質・能力等について

- 副議長から，学長に求める資質・能力等に係る規定の確認があった。
- 議長から，原案（議題1の資料）についての説明があり，委員から次のような発言があった。
 - ・「国，教育委員会や連携協力校等と協力しながら」を「国，教育委員会や連携協力校等と円滑な関係を構築し」へ変更した方がよいのではないか。
 - ・「大学に貢献している教職員を的確に見定め，それに応じた処遇をすること」「時代の変化に即応した新しい教職員の人事評価・処遇制度を再構築すること」へ置き換えてはどうか。
 - ・ミッションの推進とスピーディーな改革を中心に記載した方がよいのではないか。
 - ・「教職員とのコミュニケーションによる合意形成に努める」について，学長に学内の合意形成を求めることで，スピーディーな改革の妨げになるのではないか。
 - ・「教職員とのコミュニケーションによる合意形成に努める」について，学長だけでなく，理事，副学長及び副理事等が行う根回しも含めた教職員へのコミュニケーションによる説明が必要ではないか。
 - ・組織では，たとえリーダーが優秀でもリーダーひとりではよい結果は出ないと考えることから，学長の教職員とのコミュニケーションは非常に大切な要素ではないか。
 - ・「合意形成やコミュニケーションに努める」という一般的な表現で記載するのではなく，「ミッションの推進等について，教職員の理解が浸透するよう努める」と具体的に記載する方がよいのではないか。
 - ・福教大ブランドを具体化する文言を入れるべきではないか。
 - ・地方創生というキーワードを用いて，「教育の切り口で地方創生に繋がる取り組みを推進できること」という文言を入れるとよいのではないか。
 - ・次期学長に求める資質・能力等を取り纏める際の参考として，現学長に対してヒアリングを行ってはどうか。
 - ・学長へのヒアリングは，焦点を絞った内容で行ったほうがよいのではないか。

◎ 結論

- ・継続審議

- ・ 次回の学長選考会議において学長に対してヒアリングを行う。

2. その他

- 学長選考会議の議事概要については、今後の審議等に影響を及ぼす恐れがあるため、候補者決定後に公表することが確認された。